

特定非営利活動法人 日本治療的乗馬協会」について

近年、「乗馬療法」や「乗馬セラピー」が益々社会的な注目を集めています。この領域は「治療的乗馬」あるいは「障害者乗馬」と呼ばれ、障害のある人々や心理的な困難のなかにある人々などへの馬を用いた医療、心理・教育、スポーツ・レクリエーションとして、1970年代以降世界的に普及しつつあるものです。わが国には1980年代に紹介され、各地で取り組みが広がっています。しかし、この領域に用いる馬の育成や調教、障害や指導法に関する正しい知識や技術の普及、指導者の養成、経済的な基盤など、多くの課題があります。

私たちは、わが国における本領域の一層の質的充実と実践者および研究者の交流を目的に、2005年11月、本領域の国際的権威である元国際障害者乗馬連盟会長のカール・クレーヴァー氏を招いて「セミナー「治療的乗馬 - 理論と実際 - 」」を開催しました。

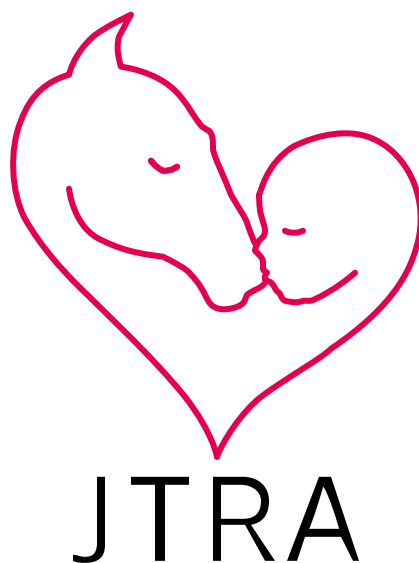
そしてこれを機に、毎年11月「治療的乗馬」研究集会>を開催し、様々な個人、組織・団体の協力、多くの方々のご参加を頂き、実践や研究報告をもとに活発な意見や情報交換が行っております。この研究集会を定期的に開催し、本領域の充実と普及に資するため、2006年3月、「特定非営利活動法人日本治療的乗馬協会 (Japan Therapeutic Riding Association; JTRA)」を設立いたしました。私たちは、国内外の関係者、関係組織と友好的なネットワークを形成し、本領域の健全な発展のために活動を行なっていきたいと願っております。

ご理解とお力添え、ご協働を心からお願い申し上げます。

理事長 滝坂 信一
副理事長 嘉納 寛治
副理事長 稲波 弘彦

日本治療的乗馬協会のシンボルマークがまりました

当協会の活動で使用するシンボルマークが決まりました。研究集会をはじめ当協会がかかわる様々な活動においてシンボルマークとして使用してまいります。人と馬が向かい合い一緒に活動を行うこと、をイメージしています。状況に応じて使い分けられるように同じ図柄で、赤と青の2種類のパターンを準備しました。このマークとともに治療的乗馬の分野がさらに発展することを願います。



日本治療的乗馬協会 HP開設

URL : <http://jtranet.jp/>

速やかな情報発信をめざし、開設を検討しておりました当協会のホームページが立ち上がりました。まだ、完全に出来上がっていないためお見苦しい点も多々あるかと存じますが、よりよいホームページとなるように努めてまいります。どうぞよろしく願い申し上げます。

日本治療的乗馬協会 ニュースレター 第2号

編集・発行 特定非営利活動法人 日本治療的乗馬協会
発行日 2008(平成20)年8月1日
事務局 東京都文京区白山1-20-4 ハウス白山ビル
電話 : 03(3813)3819
E-mail : office@jtranet.jp
ホームページ <http://jtranet.jp/>

編集後記

昨年発行いたしましたニュースレターから第2号の発行までに時間がかかりましたが、やっと発行する運びとなりました。第2号では、本年開催いたします「治療的乗馬」研究集会2008のご案内と新たに各地で活動を行っている団体からの活動報告をトピックスとして掲載いたしました。さらに、日本治療的乗馬協会では、今夏よりホームページを立ち上げました。当協会の最新の情報につきましては、ホームページ <http://jtranet.jp/> をご覧ください。今後は、定期的な発行を目指し、皆様と治療的乗馬の世界をつなぐ懸け橋となるようなニュースレターとなるよう努めてまいります。(川嶋)



JTRA News Letter

日本治療的乗馬協会ニュースレター

第2号

発行日

2008(平成20)年8月1日

< 治療的乗馬」研究集会 2008 > 開催のご案内

昨年の「治療的乗馬」研究集会 2007 は、全国各地から約60名の参加を得、8件の実践および研究報告と活発な協議が行われました。また、記念講演では一昨年の協議内容を受け、医療の領域から「うつ」状態像とその治療と評価、脳性まひと治療およびリハビリテーションについてお話をお聞きしました。

さて、今年の「治療的乗馬」研究集会2008を次のように開催いたします。今回は大会テーマを掲げました。記念講演では、大会テーマにそって心理学の領域から身体の動きと心理との関係について2題の内容を予定しております。皆様からたくさん実践、研究報告が寄せられ、会場の皆様とお目にかかれまこと、各地の実践や研究の報告をもとに活発な協議が行われますことを心から願っております。

< 治療的乗馬」研究集会 2008 >

期日 : 2008年11月8日(土)・9日(日)

場所 : オリピック記念青少年総合センター

テーマ : 馬がもたらす「一体としてのこころとからだ」

内容 : 実践および研究報告と協議

記念講演

11月8日 動きからの気づき~ フェルデンクライス・メソッドの考え方~

講師 Pamela Louise Floyd-Ogawa 氏

11月9日 人間の身体と身体の動きを心理プロセスとしてとらえる

講師 今野義孝氏(文教大学大学院人間科学研究科教授)

トピックス

記念講演のご案内 2

活動報告 3
渋谷区立代々木公園

活動報告 3
麻布大学介在動物研究室

< 国際障害者乗馬連盟 第13回国際大会 > のお知らせ

来る2009年8月12~15日、国際障害者乗馬連盟(Federation of Riding for the Disabled International: FRDI)の第13回国際大会がドイツのミュンスターで開催されます。この大会は3年に一度開催されるもので、各国の実践家や研究者が集まりこの領域の

向上のための報告や意見交換が行われます。今回はドイツ治療的乗馬評議会(Deutsches Kratorium fuer Therapeutisches Reiten e.V.)がホストとなり「身体、精神、魂のための馬(Horses for Body, Mind, Soul)」を大会テーマに行われます。

領域に関心のある人は誰でも自由に参加することができます。事前登録と選定過程を経て実践や研究成果を発表することができます。

なお、FRDIには31カ国から47がフルメンバーとして、51カ国から181名がアンシエイトメンバーとして加盟しています。現在日本からはRDA Japan、わらしべ会がフルメンバーとして加盟しており、また、7人のアンシエイトメンバーがいます(2008.2)。現在、日本治療的乗馬協会もフルメンバーとして加盟の手続きをすすめています。

国際大会の案内を含め、FRDIの詳細はURN : <http://www.frdi.net/> で見ることができます。



この大会にはこの



治療的乗馬研究集会2008<記念講演1>

動きからの気づき~ フェルデンクライス・メソッドの考え方~

講師: Pamela Louise Floyd-Ogawa 小川パメラ(おがわ ぱめら)氏

内容:

海外では治療的乗馬を実施されている方々がフェルデンクライス・メソッドを勉強されていることをよく聞きます。それはなぜでしょうか。この講演では、フェルデンクライス・メソッドの基本的考え方をご説明し、実際に個人レッスン(FI)をみていただき、状況によってはグループレッスン(ATM)を皆さんに体験して頂きたいと思っております。そのレッスンからなぜ治療的乗馬につながるかに気づいて頂きたいと思っております。



講演者の紹介:

1983年米国オハイオ州レイクエリー大学心理学専攻卒業、1985年米国イリノイ州南イリノイ大学大学院応用言語学科TESL(Teaching English as a Second Language)専攻修士課程修了(M.A.)後、米国と日本にて第2外国語として英語を勉強する児童、生徒、学生、会社員に英語を指導してきた。1995年から米国イリノイ州シカゴにてフェルデンクライス・メソッドのプロフェッショナルトレーニングプログラムを受講し、1998年にフェルデンクライス・プラクティショナーとなり、八王子(東京都)やコモアしおつ(山梨県)で教室をオープンしレッスンを行って来た。

夫である小川家資教授の実験にフェルデンクライス・プラクティショナーとして協力、その結果は国際人間工学会(2003年)に報告されている。現在、米国マサチューセッツ州ボストンで娘2人(高3、高1)のサポートをする傍ら Massachusetts Comprehensive (MCAS) コーディネーターと英語講師をしながら、EFT (Emotional Freedom Technique) と Tong Ren を勉強中。健康につながるマインドパワーに興味あり。



* Ogawa, Iiji., The importance of relaxation and instruction when learning a balanced posture: a look at elderly, middle-age, and elementary school children, Proceedings of the IEA 2003, Vol. 5, pp 201-204, 2003.

麻布大学介在動物学研究室

麻布大学介在動物学研究室では馬を6頭(サラ1頭、ポニー2頭、木曾馬1頭、半血種2頭)飼育しています。これらの馬は、学生の実験や実習に用いられるだけでなく、近隣の公園における乗馬体験会などのイベントでも活躍しています。また、本研究室の卒業生が定期的に行っている乗馬会でもいつも大活躍です。この乗馬会「パッカパッカくらぶ」主催者の一人、要香澄さんにインタビューしてみました。



-パッカパッカくらぶはどんなことをしているのですか?

要「パッカパッカくらぶでは、麻布大学介在動物学研究室の協力の下、同研究室の卒業生が中心となって、障がいを持つ子供たちに乗馬の機会を提供しています。」

-それはよく見かける引き馬のようなものではないですか?

乗馬の効用を最大限に生かすために、理学療法士の指導の下、個々に適したプログラムの実施や姿勢の評価を行っています。そして何より子供たちやこの活動に携わる全ての人たちが、そして馬が、楽しい時間を過ごせるよう日々活動を続けています。」

-何か皆さんに向けてメッセージなどありますか?

子供達の乗馬をサポートして下さるボランティアさん大歓迎です。興味のある方は是非一度ご見学にいらしてください。お問い合わせ等はメールにてお願いします。アドレスは pakapaka_club@ktf.biglobe.ne.jp です。またHPでも活動の様子等を掲載しています。是非一度アクセスしてみてください。URLは <http://lipizzaner.plala.jp/pakapaka/> です。」

研究室では、新設される「人と動物の関係に関する教育研究センター」と共同で、地域の子供たちや高齢者を対象に6頭の馬たちを用いた介在活動を行う計画です。

渋谷区立代々木ポニー公園

小田急線参宮橋駅から徒歩2分、明治神宮にほど近い一角に、2003(平成15)年7月31日、渋谷区立代々木ポニー公園が開園しました。

隣接する(社)東京乗馬倶楽部で以前から行われていた障害児の体験乗馬活動をきっかけに、渋谷区との理解を得て、地域の人々や、障害を持つ子どもたちに対して、ポニーとのふれあいを継続的に提供する公共施設として活動しています。

開園当初には1ヶ月で約3000名が来園し、現在もたくさんの方々にポニーとのふれ合いを楽しんでいただいています。ポニー乗馬を体験された子供たちも累計6万人に達しようとしております。

2回の施設整備を経て、現在は遠方の学校、施設などからポニーとのふれ合いの依頼を受け、出張での体験活動を行う場合もあります。日ごろポニーを身近に接することがない子どもたちにとっては、こうした試みがあります。自分の興味や関心を大きくすると考えます。

また、都市空間における公共的な伴侶動物(コンパニオンアニマル)と人間との関係に着目した共同研究や、日本治療的乗馬協会の実践活動にも積極的に協力し、スタッフの質的向上を期待するとともに、日常の活動の中で子どもの安全面や、馬のケアにも細心の注意を払っています。

騎乗時の事故を未然に防ぎ、来園者に安心を提供するため、子どもにとってポニーに対するよりよいアプローチを探し、同時に都市空間においてストレスを受容しやすいポニーに対しては、騎乗時間以外には放牧を中心とした飼育を行い、同時に定期的に自然環境での放牧との入れ替えを行うことで、子どもとポニーの双方に安心を付与する心がけを行っています。

このポニー公園をきっかけに、より多くの方がポニーや馬といふ動

物の存在、そして乗馬への関心を高め、そしてポニーを介した障害を持つ子どもたちの体験活動が、本人の主体性、社会性を向上させる助けとなることも一つの大きな願いです。

動物と触れ合う機会が少なくなっている現在、観光や課外活動といった非日常的な行動の一環ではなく、日常生活で身近にポニーといふ生き物と触れ合うことのできる環境で、子どもたちは自分で馬



に近づくこと、乗ること、エサをやることなどの行為を主体的に行い、ポニーとの関わり方を自分なりに学んでいくことは、自然に情操面、人格面で成長し、生命の大切さを感じ取る心を育てていくことができると考えます。

わが国においては、日常生活でポニーと気軽に触れ合える場所は数少ないですが、今後各地においてこうした取り組みを行う施設とスタッフの充実を期待しつつ、先見的な役割を担っていければありがたいことだと考えております。